



上冊

喜鶴堂毒梓

213  
2378  
193



雪磨作  
英泉画

# 江粉 繪賣昔風俗

天保乙巳

芝神明前

佐野屋士喜兵衛販



上册

天津繪の筆のそと久近松返魂香を本據て式真大人の著せし  
 吃又平の妙作を又久松久五葺新製の新作の新作の音通と欄間の  
 影を小刀甚五郎が玉を顯し床の掛地又平の名画の奇特の名は天津繪  
 鬼の念佛を郡平の善心あきと角を打り坐頭の坊の禪も長物語の體  
 悔話を引る大の上諭をるや西歳の年月日時をひの兄弟膽を血  
 小病さる家富さる忠孝の於徳於祥の名小るの鶴子もあき金を調  
 人參たのまの百両を延喜の小判小伊勢の手引終ふ敵をり繪が本望  
 遂に戀婿の小栗の毒酒おむた之祝言の夜の床盃めり重る目出度  
 彼高砂の尉と姥を面ふりる諸白髪千秋樂と舞おさる喜鶴堂  
 の綴丹小吉例るる筆を試む

墨川亭雪磨作



善積

郡平

壽加帳

大津

徳の

筆此

たしん

何佛

芭蕉

持監門人

土佐又平 重起

大津画

丹乃

寺紀

寺家

暑可那

蓼太

雲谷奴隸

臍助

八團上大





甚五郎  
小伊勢

甚五郎  
大黒

持監下僕  
左甚五郎



又平筆のあまの佛

小栗の  
判之助  
宗高

吉原  
風流紅粉色



持監娘  
寫繪

職人合光信画

はな

お国

お国

お国

お国

お国

お国

お国

お国

お国

お国

お国

お国

お国

お国

お国

お国

お国

お国

お国

お国

お国

お国

お国

お国

お国

お国

お国

お国

お国

お国

お国

お国

お国

お国



長谷部 雲谷

又平妻

お篤



甚五郎女房 お嵯峨















喜鶴堂新刻板諸品目錄

風流画半切類御箱入表を次

東千代身新形清遊物入表

東海道五十二次續錦絵 奉書四ツ切 廣重戯画

新江戸團扇類御箱入下直仕書 國貞改二代目

百人一首 講釋入 大錦繪風流女画 一陽齋豊国筆

東都錦繪團扇本類卸店 以之神明前三島町 佐野屋喜兵衛梓



江戸繪賣昔風  
彩粉賣俗

墨川亭雪磨作  
溪齋英泉画



中冊



來之雅園  
花

墨川亭雪麿作中編

紅彩繪賣昔風俗

全六冊

溪齋英泉画 喜鶴堂梓



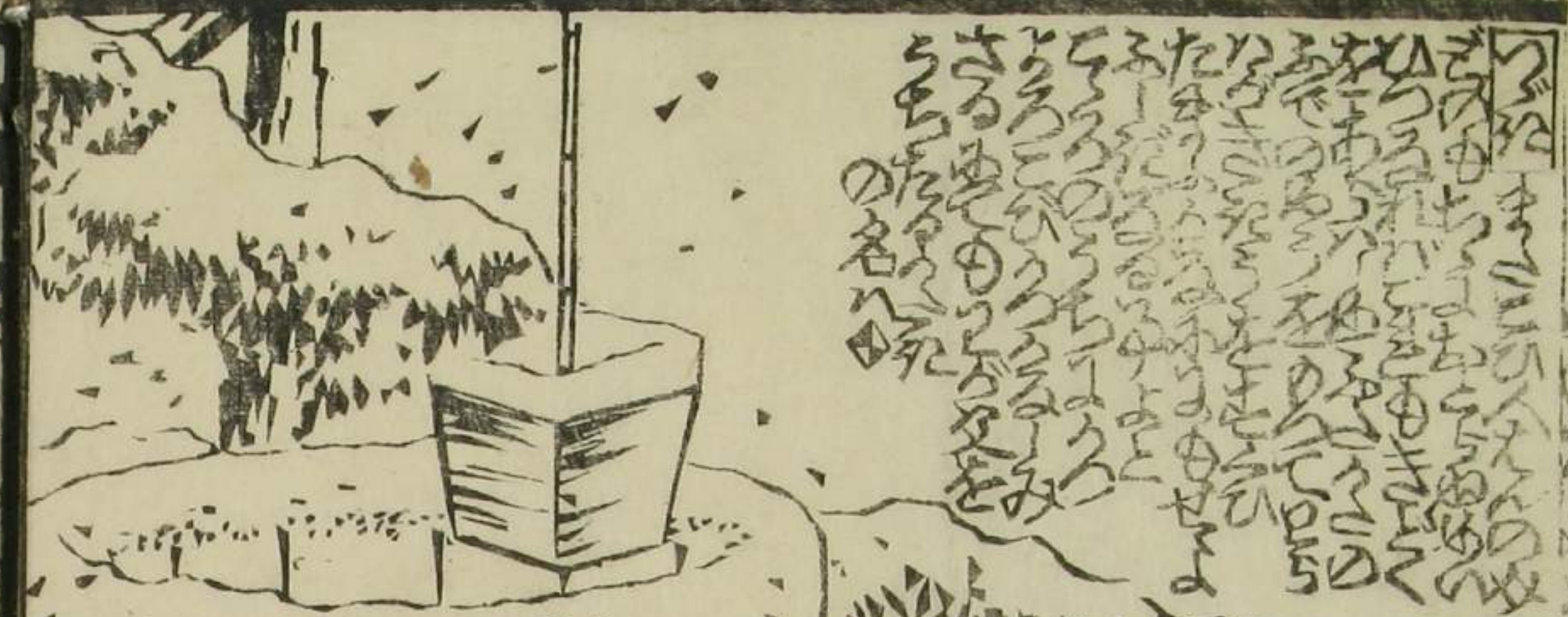
三







Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a commentary or a poem related to the illustration. The text is dense and written in a cursive style.



Handwritten Japanese text in vertical columns, continuing the commentary or poem from the left page. The text is dense and written in a cursive style.



Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a narrative or commentary related to the illustration.



Small block of handwritten text at the bottom left of the page.

Small block of handwritten text at the bottom center of the page.

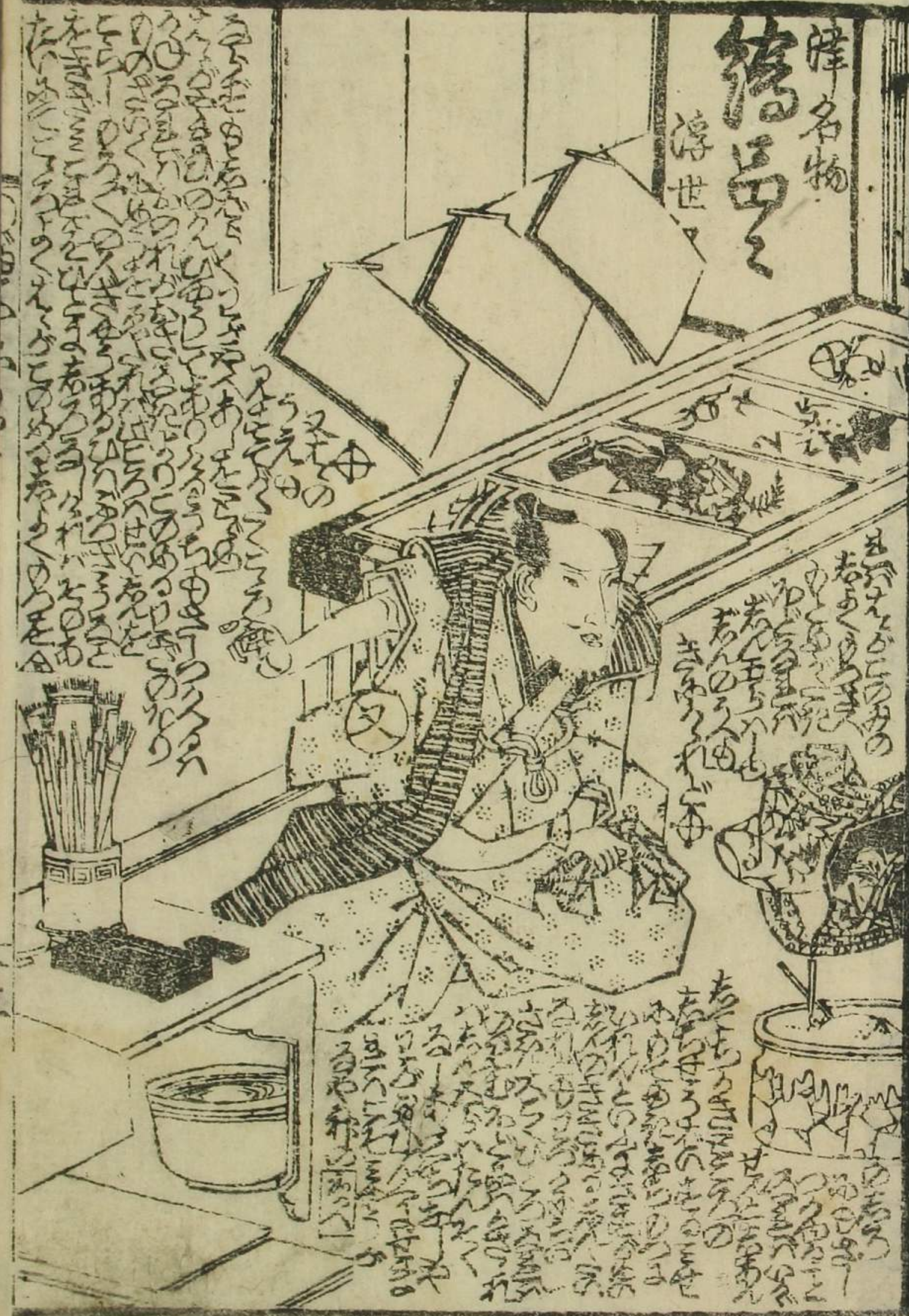


Vertical columns of handwritten Japanese text at the top of the right page.

Large block of handwritten Japanese text at the bottom right of the page.

Block of handwritten Japanese text at the bottom left of the right page.

怪名物  
海世



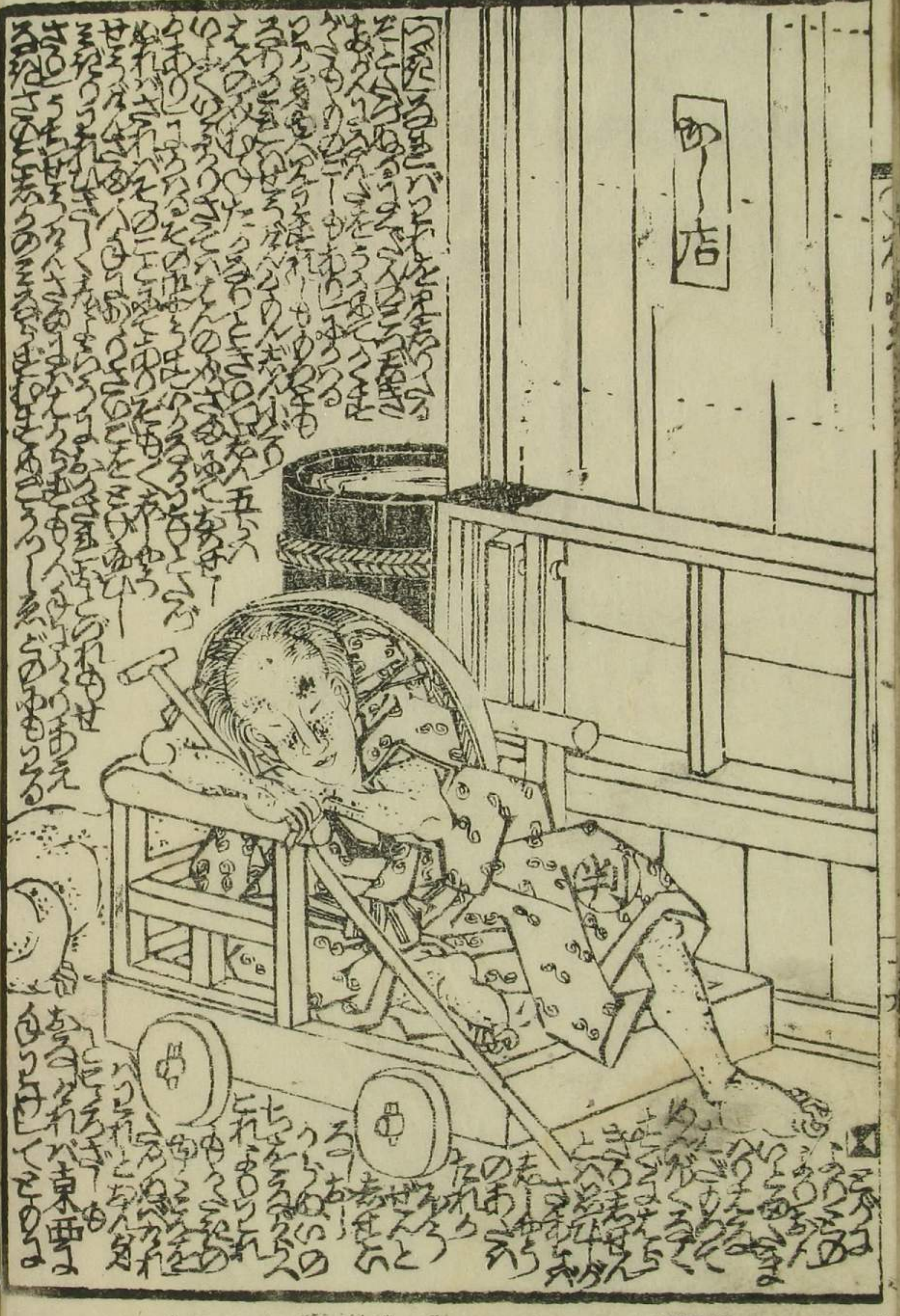
Vertical text on the left side of the page, likely describing the scene or the items on the table.

Vertical text on the right side of the page, continuing the description of the scene.



Vertical text on the right side of the page, likely describing the scene or the items on the table.



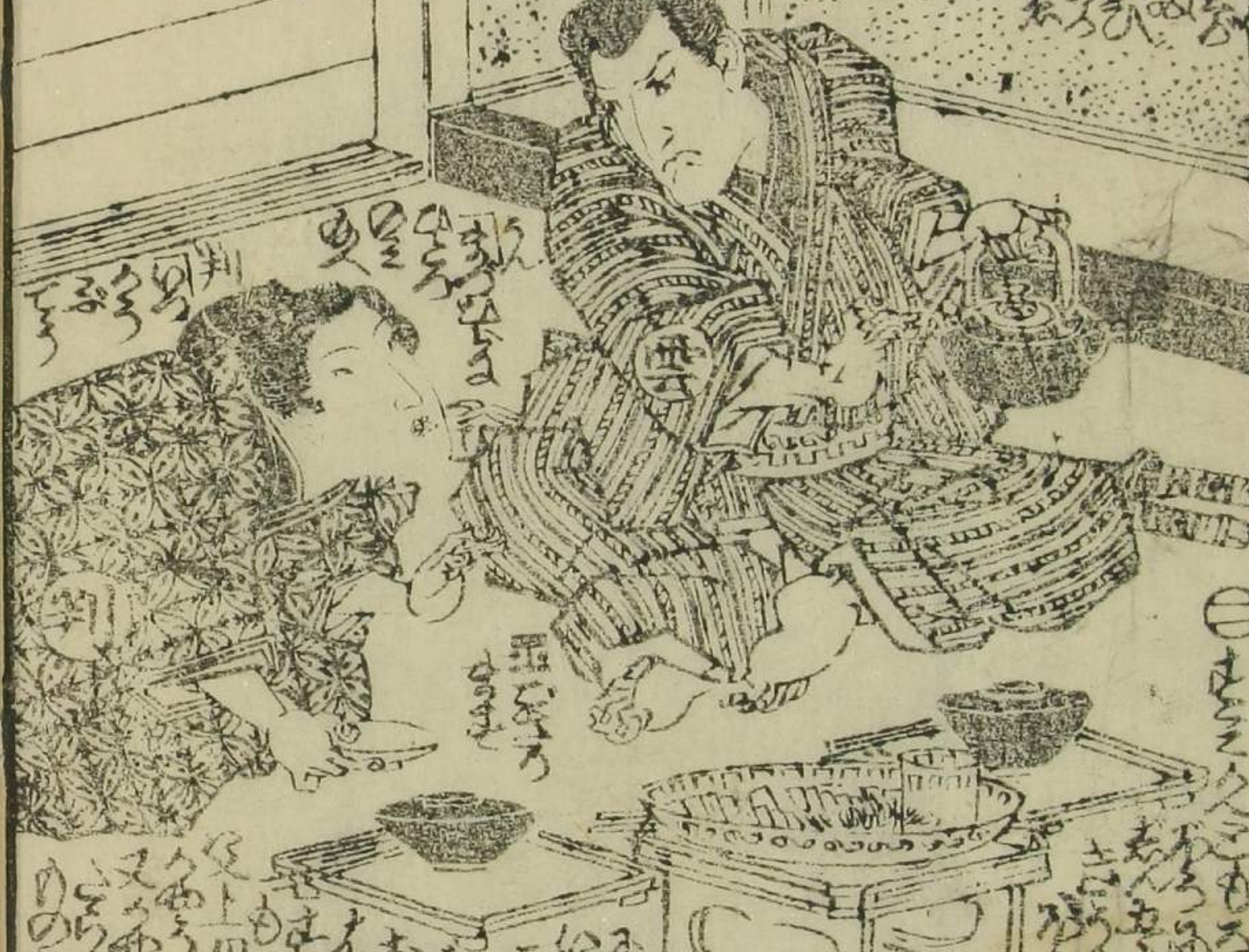


田のれい...  
あつた...  
うらな...  
あつた...  
うらな...  
あつた...  
うらな...



あつた...  
うらな...  
あつた...  
うらな...  
あつた...  
うらな...

田のれい...  
あつた...  
うらな...  
あつた...  
うらな...  
あつた...  
うらな...



あつた...  
うらな...  
あつた...  
うらな...  
あつた...  
うらな...







あはれとてえい

明後日 後日

己卯三月





下冊



佐野喜發市



東本寺雅  
新  
其  
周

# 昔風俗

下の巻

墨坐川亭雪磨作

天保十六乙巳年

溪齋英泉画

孟春發市

東都書房

芝神明前三島町

佐野屋喜兵衛梓

五



Handwritten text in vertical columns, likely a narrative or commentary, surrounding the illustration on the left page.



Handwritten text in vertical columns, continuing the narrative or commentary, surrounding the illustration on the right page.









五の昔々人の世をあらめたるは...  
あつたまをうけをえして二...



平とのひさし...  
あつたまをうけをえして二...

つきのあしをいひて...  
あつたまをうけをえして二...



世の人のあつたまをうけをえして...  
あつたまをうけをえして二...

五の昔々

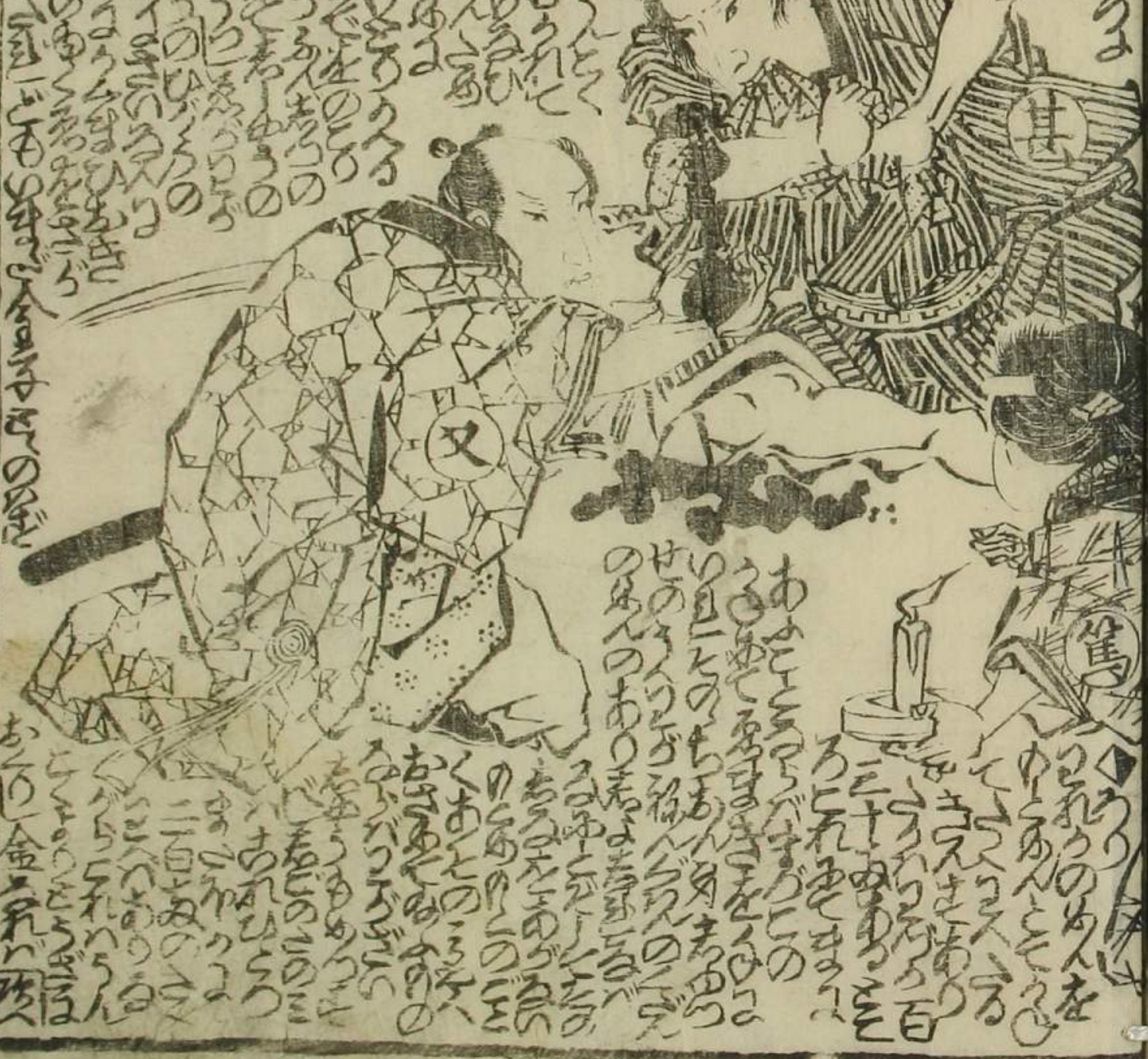
世五

つたまき... 五... 平... の... せ... せ... せ... せ...



金子... の... せ... せ... せ... せ... せ... せ... せ... せ... せ... せ...

あ... の... せ... せ... せ... せ... せ... せ... せ... せ... せ... せ...



○ 金子...

廿七









墨川亭雪麿作



墨川亭雪麿作  
 此の書は、雪麿の自傳的なものか、あるいはその門下の一人が記したものである。雪麿の生平、その学問の経緯、そしてその政治的立場について詳しく述べられている。雪麿は、天明から天保にかけて活躍した文人であり、その思想は、儒教と蘭学を融合させたものがあった。この書は、雪麿の思想的変遷を窺うことができる貴重な資料である。また、雪麿の交友関係や、その時代の文壇の状況についても詳しく記されている。雪麿の没後、その著作は多くが散佚したが、この書だけは、墨川亭雪麿の筆で残されている。雪麿の著作は、その時代の文壇に大きな影響を与え、後世の文人にも多くの教訓を与えている。雪麿の思想は、その時代の士族の意識を反映しており、その政治的立場もまた、その時代の状況をよく表している。雪麿の著作は、その時代の文壇の発展に大きく貢献しており、その功績は、後世にまで語り継がれている。雪麿の著作は、その時代の文壇の発展に大きく貢献しており、その功績は、後世にまで語り継がれている。雪麿の著作は、その時代の文壇の発展に大きく貢献しており、その功績は、後世にまで語り継がれている。

教訓乳母草紙 初編四冊  
 一勇齋 國芳画

前太平記 遠霞平安城 全四冊  
 歌川 國芳画

同二編 跡追話 全四冊  
 二代一陽齋 豐国画

同二編 驪猿嶺内裏 同撰

紅粉繪賣 昔風俗 全六冊  
 墨川亭雪麿作 漢齋 英泉画

同三編 念方弓勢譽 同撰

西国 奇談 月夜神樂 初編編  
 五柳亭德外作 初 國芳画 二英泉画

林羅萬象多異支雜談 全冊  
 西馬戲作 貞重画

繪本 權一代記 全五冊  
 鳥有山人作 歌川 國芳画

東都芝神明前三島町角 廿 佐野屋喜兵衛發行

岡

仙

福

世  
四

福

福  
仙  
氏

永  
興

興

永  
興  
氏

永  
興